

ひきこもり等に関する実態調査報告書 概要版

令和3年2月 保健福祉部健康増進課

1 目的

近年、8050問題等、ひきこもりが社会的な問題となっている。ひきこもり問題は、家庭・教育・就労・医療などの行政分野にまたがり、表面化しにくく、しばしば長期化する。当市では、部局や管轄対象者の年代を超えた7つの課・室（保健福祉部健康増進課・社会福祉課・障害福祉課・障害者地域支援室・地域包括支援課、教育局学び推進課、こども部子育て相談室）が連携し、ひきこもり対策を進めているところである。ひきこもり状態にある人々の実態については内閣府による全国調査が実施されているが、つくば市内における行政圏域別の詳しい実態に関する調査はこれまでに行われていなかった。

本調査は、ひきこもりに至った要因や期間、生活実態、家族や周りの方の困り感、偏見等について、地域の実情を把握している民生委員・児童委員に対し、質的な調査を行った。またその前段階として全民生委員・児童委員によるひきこもり事例の把握数を指標としてできる範囲での数量的な把握を試みた。当市のひきこもりに関する現状とニーズを明らかにし、今後の施策展開の基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査の対象

本調査では、15～64歳の男女で、次のいずれかのような状態が続いている方を「ひきこもり状態」とした。

(1) 社会的参加（仕事・学校・家庭以外の人との交流など）が出来ない状態が6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の方

(2) 社会的参加ができない状態であるが、時々買い物などで外出することがある方

※ただし、重度の障がい（身体・知的・精神）、疾患等で外出できない方を除く。

（参考：平成28年内閣府「若者の生活に関する調査」、平成30年内閣府「生活状況に関する調査」、平成30年大分県「ひきこもり等に関する調査」における「ひきこもり状態」の定義に準拠している）

3 調査方法

(1) つくば市の民生委員・児童委員に対するアンケート調査

令和2年7月の民生委員児童委員協議会定例会にて、調査票を配布し、民生委員・児童委員の把握している範囲での記入を依頼。調査票は当日に回収した。

(2) つくば市の民生委員・児童委員に対する電話での聞き取り調査

(1) に回答いただいた民生委員・児童委員のうち、電話での聞き取り調査に協力可能と回答した方かつ、担当地区の事例がある方を対象に8～9月に聞き取り調査を実施した。家族・地域レベルでのひきこもり支援特有の困難感や課題について、電話にて聞き取りをした。

4 調査期間

令和2年7月～令和2年9月

5 回収結果

(1) アンケート回収

民生委員・児童委員 227人 (回収率 83.8%)

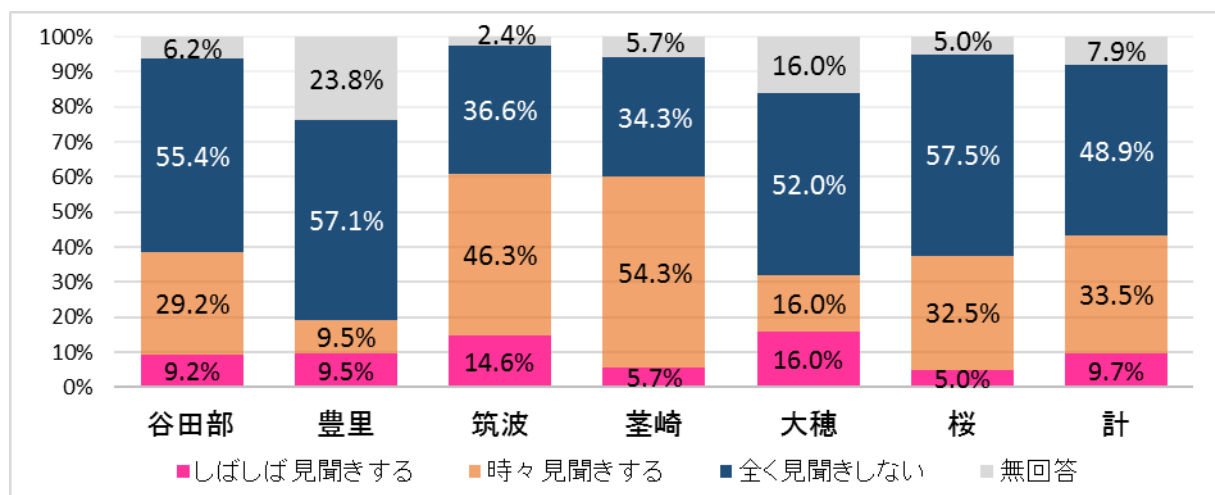
(2) 聞き取り調査協力人数

民生委員・児童委員 48人

6 集計結果

(1) 担当地区におけるひきこもり状態の方の情報

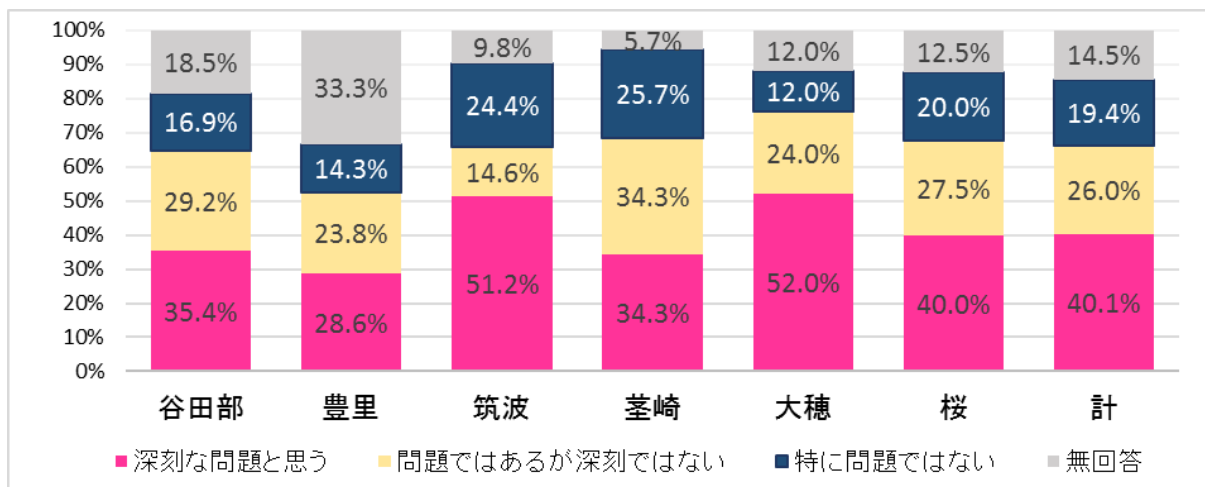
(アンケート調査)



担当地域内で、現在、ひきこもりの事例を見聞きする民生委員・児童委員は43.2%、全く見聞きしない方は48.9%であり、見聞きしない方がやや上回る。

(2) ひきこもり問題の深刻さ

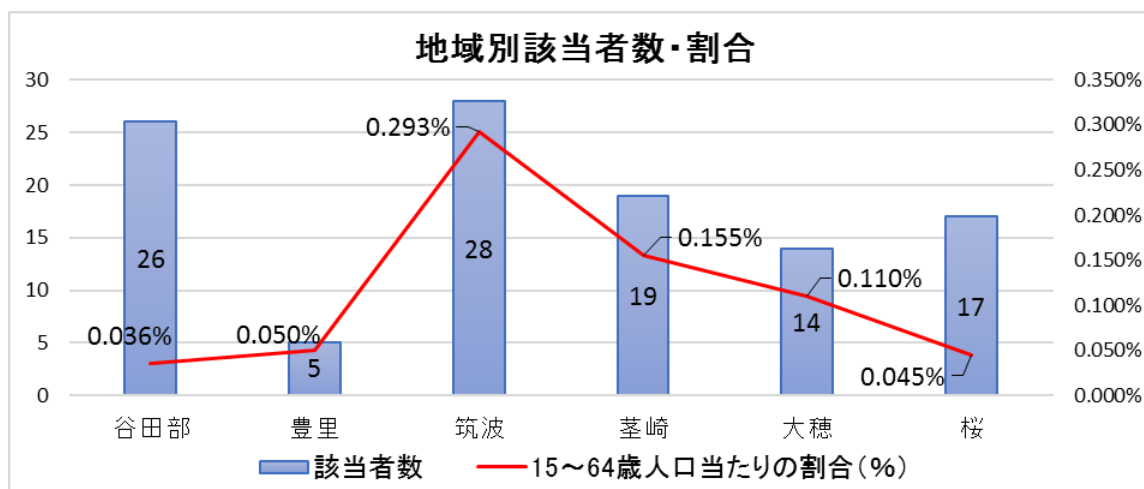
(アンケート調査)



地域のひきこもりに関する深刻さについて、深刻な問題ととらえている方は40.1%であった。「特に問題ではない」「無回答」と回答した方は合わせて33.9%だった。

(3) 現在、民生委員・児童委員が把握しているひきこもり状態の方の人数

(アンケート調査)

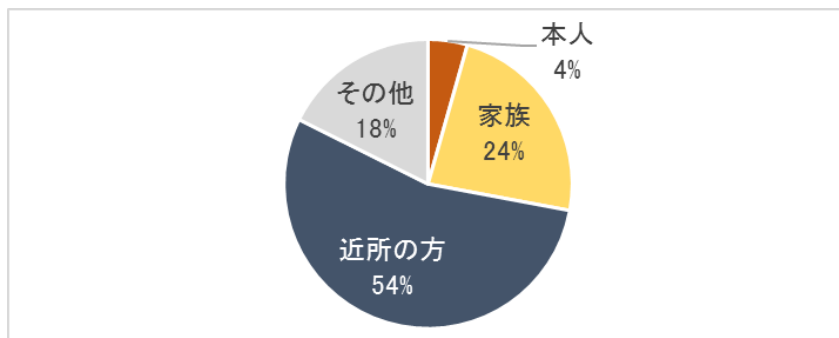


令和2年5月時点の人口で算出

調査により把握できた該当者数は109人であった。15～64歳人口当たりの該当者割合は、0.07%となっている。

(4) 把握しているケースの情報源

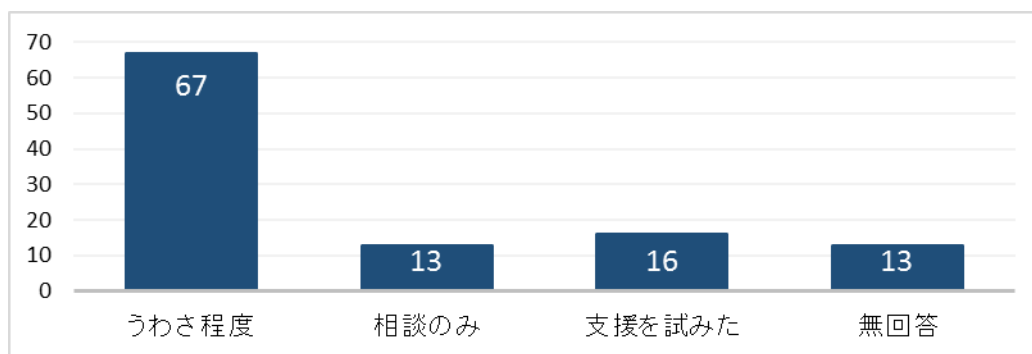
(聞き取り調査)



地域のひきこもり状態にあると思われる方の情報源は、近所の方からが最も多く、次いで家族から聞くことが多い。その他の回答は、民生委員の活動（高齢者の調査）中に知り得た、子ども同士の付き合いから知り得た等の回答がみられた。

(5) 事例への関わり度

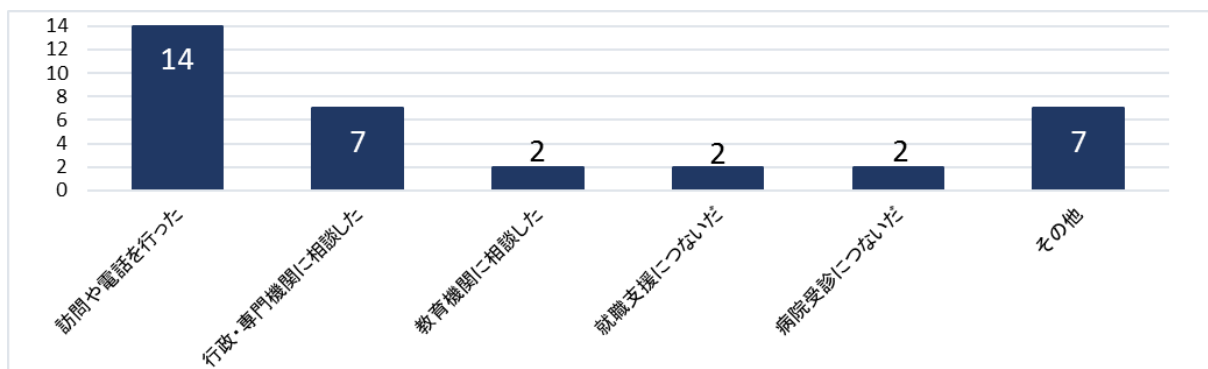
(アンケート調査)



民生委員・児童委員の地区の事例への関わりは、うわさに聞く程度が多い。

(6) 相談を受けた場合、どのような対応をしたか

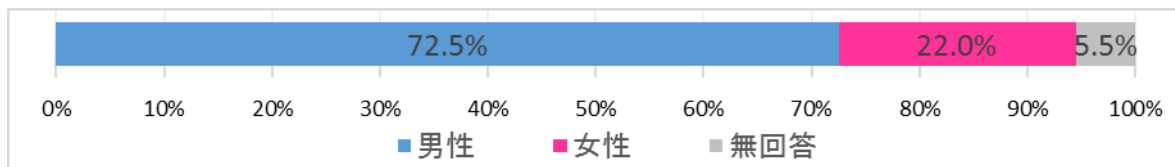
(聞き取り調査)



相談を受けたことや支援を試みたことがある事例では、訪問や電話対応をした方が最も多かった。

(6) 該当者の性別

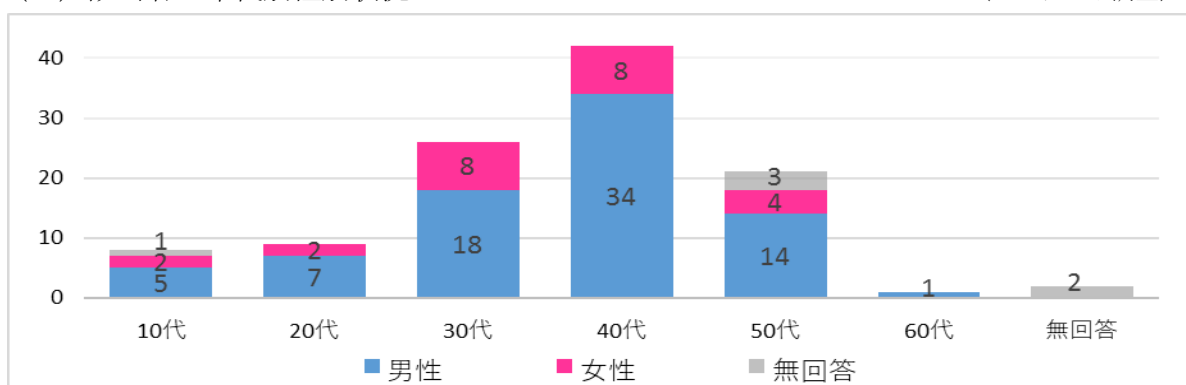
(アンケート調査)



男性が72.5%、女性が22.0%、無回答が5.5%となっており、男性が女性の3倍ほど高い比率になっている。

(7) 該当者の年代別性別状況

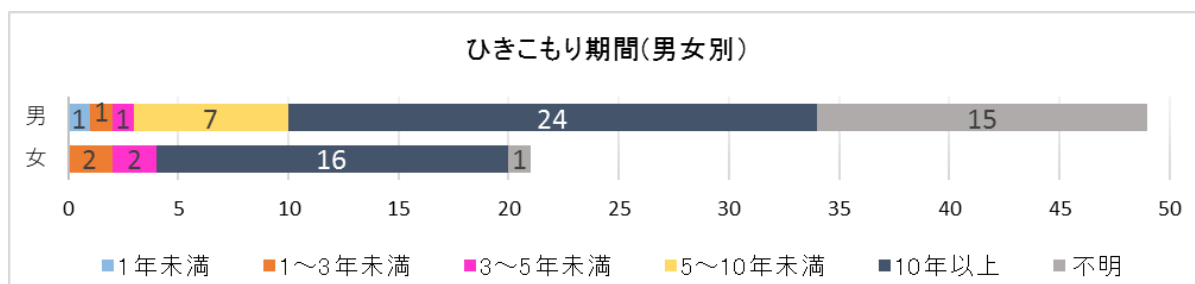
(アンケート調査)



年代別では、40歳代が最も多く、次いで30歳代が多い。15～39歳までの若者は43名で全体の39.4%を占め、40歳以降の中高年は、58.7%を占めている。

(8) ひきこもり状態の期間

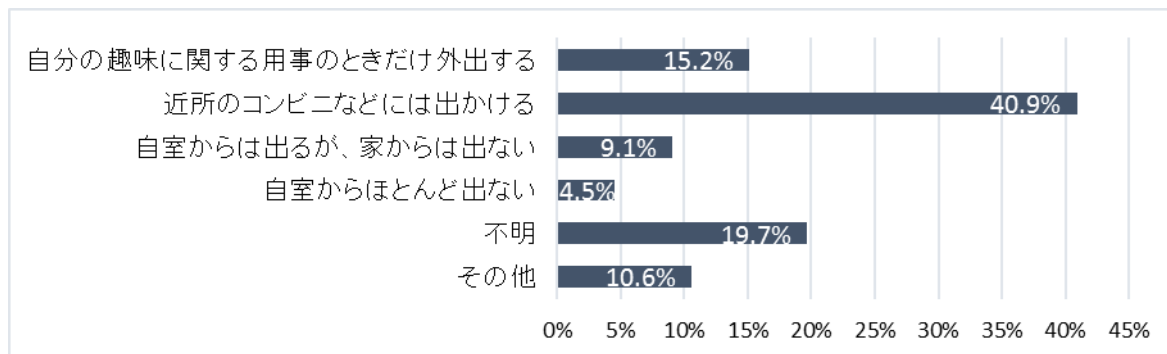
(聞き取り調査)



把握しているひきこもり対象者では、10年以上ひきこもっていると思われる方が57%を占めている。男女別では、どちらも10年以上が最も多い。

(9) 外出状況

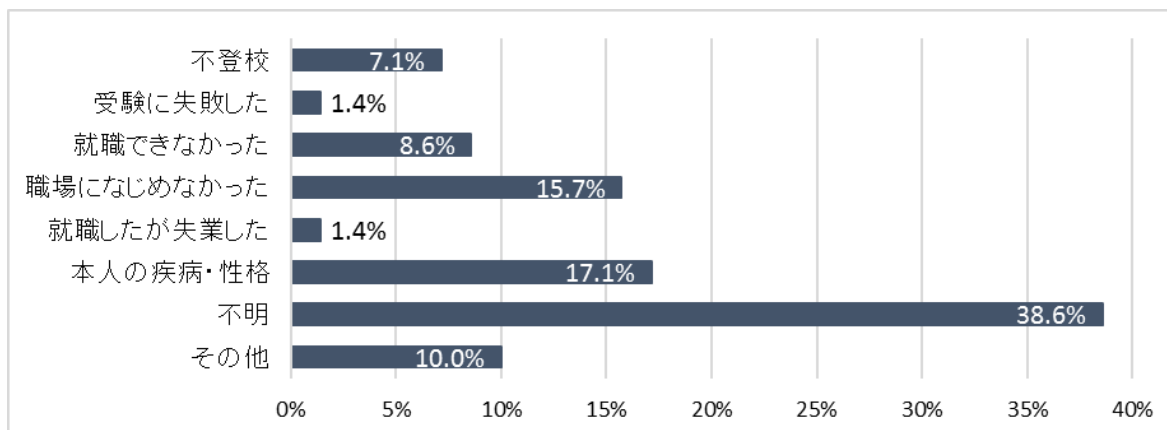
(聞き取り調査)



「自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「近所のコンビニなどには出かける」の準ひきこもりに当てはまる方が56.1%を占めている。「自室からは出るが、家からは出ない」「自室からほとんど出ない」の完全ひきこもりが13.6%であった。

(10) ひきこもり状態に至った経緯

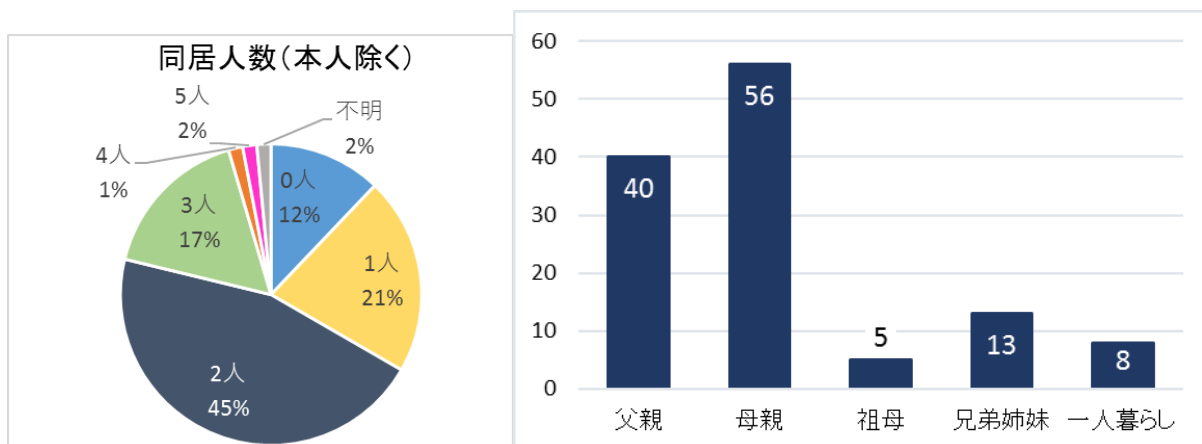
(聞き取り調査)



「不明」が最も多く、38.6%を占めている。わかるものの中では、「本人の疾病・性格」「職場になじめなかった」の順に多い。

(11) 同居人数・家族構成

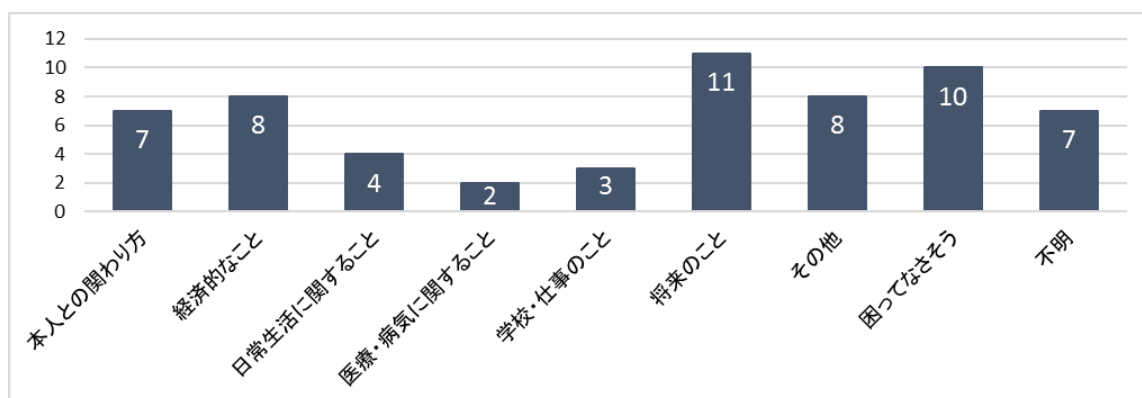
(聞き取り調査)



一人暮らしは12%で、誰かと同居している方が86%を占めている。母親、父親、兄弟姉妹の順が多い。経済面は両親が支えている方がほとんどであり、その内訳は親の年金が半数以上を占めている。

(12) 困っていると思われる内容

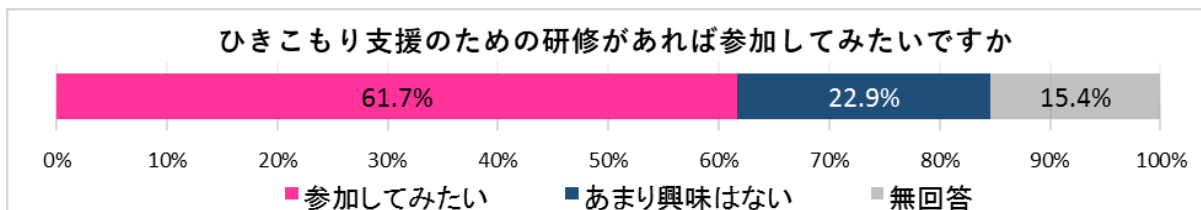
(聞き取り調査)



困っていることの内容では、「将来のこと」が最も多く、次いで「困ってなさそう」が多かった。「困ってなさそう」という事例の中には、親が働いている・資産があるという理由が多かった。また、ひきこもり状態によって困り事を抱えているのは、母親が最も多かった。

(13) ひきこもり支援への研修参加について

(アンケート調査)



61.7%の民生委員・児童委員がひきこもり支援に関する研修に参加してみたいとの回答だった。

7 自由回答

(1) 必要だと感じる支援や課題など

(聞き取り調査)

分類	(件)	内訳	(件)
情報収集	17	情報が得づらい	6
		困り感がわからない	7
		実態がみえない	4
介入のきっかけ	9	関わるきっかけがない	2
		知っている家でないと関われない	2
		声をかけづらい	1
		相談されないと関わりづらい	4
関わり方	18	支援の方法がわからない	6
		専門知識が必要	1
		支援が難しい	6
		対象者と会えない	3
		家族が拒否	2
支援の内容	2	自立の促しが難しい	1
		家族の支援が必要	1
その他	1	必要な申請をしているかどうか不明	1

最も多かったのは、当事者や家族との関わり方についてであり、「関わることで逆に迷惑をかけるのではないか」「なんと声をかけたらよいか」等の意見がでた。次いで、情報収集に関する意見が多く、「家族が健在で何に困っているかわからない」「ひきこもり状態の事実の確認が難しい」等の内容があがった。当事者や家族に対する直接的な支援に関する課題やニーズが多くみられる。

(2) つくば市の取り組み等に期待すること

(聞き取り調査)

分類	(件)	内訳	(件)
対象者の情報共有	5	市との情報共有	4
		ひきこもりの発見	1
知識習得の場	5	支援者研修	3
		情報交換の場	2
相談・支援体制の強化	11	支援するきっかけづくり	2
		継続した支援	4
		他課との連携	1
		支援体制の充実	2
		多様な情報と支援	1
		相談対応をしてほしい	1
支援先へのつなぎ	7	相談窓口の明確化	2
		相談先の周知	4
		就労支援の推進	1
居場所づくり	2	集まる場があるとよい	1
		地域コミュニティの強化	1
今後の方策	2	方針の明確化	2
その他	2	7090問題への対応	1
		個人情報を柔軟に対応できるとよい	1

相談・支援体制の強化についてが最も多い。地域でひきこもりがいた場合に専門機関とのつながりを求める意見や支援内容の充実を求める意見が多い。また、研修や相談先につながるための市との情報共有など、支援者への支援を求める意見もみられる。